

会議録

会議の名称	西東京市立田無第四中学校及び西東京市立柳沢中学校の 生徒数の変動への対応に関する地域協議会（第3回会議）
開催日時	平成30年11月26日（月） 午前10時00分から午前11時40分まで
開催場所	イングビル市民会議室
出席者	<委員> 瀬沼 洋子、野口 由佳、本名 修也、島崎 里子、辻 未来子、神山 繁樹、篠宮 武男、竹平 真由美、清水 宣宏、荘 葉子、山縣弘典、村山 八枝子、今井 ゆみ、横山 常雄、小松 豊明、幸 由希、高野 公子、勝見 俊也、紺野 和子、仙田 初枝、河合 奈美子、東山 信彦（順不同・敬称略） <事務局> 森谷 修（教育部参与兼教育企画課長）、大谷 健（教育企画課副主幹兼学務係長）、根岸伸太郎（教育企画課学務係主査）、室田 真衣（教育企画課学務係主事）
傍聴者	2人
議題	1 開会 2 地域協議会検討結果報告書（案）について 3 その他 4 閉会
会議資料の名称	資料1 地域協議会（第2回会議）会議録 資料2 田無第四中学校及び柳沢中学校の生徒数変動への対応に関する地域協議会検討結果報告書（案） 資料3 メリットを活かすこれまでの取組状況
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	
<○発言者：発言内容> 開会 議題2 地域協議会検討結果報告書（案）について ○事務局：資料2について説明。 ○副会長：資料3について説明。 ○会長：ただ今の説明について何か質問のある方は挙手願いたい。 ○委員：資料3の中で柳沢小全域が柳沢中に行った場合の生徒数の変動についての記述があるが、具体的に何人になるのか。 ○事務局：人数については概ね300人代半ばから後半になると推計している。 ○委員：クラス数は何クラスになるか。 ○事務局：クラス数は最大12学級となる。今現在行っている少人数指導を行うのは、厳しい状況になる。 ○会長：それではこれから15分間各校ごとに今回の対応に関する感想等、グループで話し合ってください、その後意見を共有したいと思います。 ■各校における意見の発表 【田無小学校】 ○委員：資料3を見ると、このような資料はなかなか目や耳にする機会がない。子ども	

を柳沢中に行かせたいという感想も出てくると思う。学校選択については、田無小には柳沢中の情報はほぼ入らない。学校選択のチラシを見ても、ここまで丁寧に書かれていないため、各中学校の特色をアピールすると市内全域のことが分かって良いと思う。一方でこの協議会が発足した時点で何かあるのだろうということから、せっかくのメリットも伝わらず、何か起こるのだろうという噂が起きる。ここにいる皆さんはメリットの話を伺ったので、何も騒がなくても良いのではないかという気分になるのではという話をした。一方では田無小から田無二中へは毎年3名から5名程度しか進学しないが、田無二中で田無小の子どもが不憫な思いをしているという話は一回も聞かない。その辺りは大人の目で見ると田無小の保護者は田無小の通学区域しか知らないかもしれないが、子ども達はもっと広い行動エリアや生活圈を持っており、大人の取り越し苦労もあるのではないかという話もした。噂よりもメリットをたくさん伝えていただけたら良いのではないか。

【保谷第二小】

○委員：まず資料2の13ページ「より開かれた学校づくり」の「③生徒の流出への対策」とあるが、個人的に「流出」という言葉が気になった。学校の選択をしているのであって、「流出」しているのではないと考えたい。保谷第二小は柳沢中へ100%が進学するという関係なので、今私達が考えるのは、保護者は保谷第二小と柳沢中と重複するので、その連携を強めるということが一点ある。保護者レベルでの連携が強まれば、イベント等で、そこに子どもが係っていくことになる。連携というより一体感であり、それは自助努力ができるのではないかと思っている。また、柳沢中がこれだけメリットを活かした取組があるのであれば、市にバックアップをしてもらうべきではないか。ICTの時代ということで、例えば生徒1人ひとりがタブレット端末を持って授業を行う等の取組みや、英語を中心に行う場合には、ALTの指導枠の拡大等がある。通学区域変更というより、柳沢中しかやっていないということをして市にバックアップしていただき、アピールするという方向で市が動いてもらえると良いのではないか。資料2の14ページで柳沢小全域を柳沢中へというところがあるが、これは市が一刀両断してくれなければいけない話なのではないか。各校色々な課題があると思うので、通学区域を動かすよりは学校単位でどうするかということも視野にあるという話もした。

【東伏見小】

○委員：資料2の通学区域の地図だが、2013年に見直した区域が柳沢中と田無四中の地図の線引きを見ても、保谷と田無ではっきりと分かれている。西東京市になって十何年経っているわけなので、ある程度旧保谷、旧田無という区別を直し、柳沢中の範囲を見直し、保谷と田無という線引きを廃止できたらと思う。未だにここだけが保谷、田無と残っているので、西東京市は合併してこれだけ経つのであれば、町別の区分けは撤廃してもらいたいということが意見として出た。東伏見公園が拡大されていくと今後は東伏見小の児童数も減り、柳沢中も大規模開発ができるようなところがないので、柳沢中も生徒数が減っていくため、保谷第二小と向台小の区域の見直しをぜひ検討してもらえたらということでも話をした。

【向台小】

○委員：検討における優先順位ということが示されているので、これを大切にしながら進めているかと思う。勝見校長がお示しになっている資料3について、一般的にデメリットと言われることをメリットにチェンジする気持ちや挑戦というのは、学校の責任者である校長は誰しも思っている。向台小は、保護者からも児童数が多いと言われるが、多いと言われてもこちらとしてもどうしようもないところもある。それをどうメリットにチェンジしていくということを常に考えている。大きいも小さいも気持ちや取組みは変わらないと思う。勝見校長がお示しになっているものを、いかに教育委員会も地域も

保護者も近隣の学校を応援するかということが焦点になっていると思う。先日も柳沢中のチラシを配付したが、そういった色々な情報交換を柳沢中や田無四中から小学校へ、あるいは小学校から中学校へ情報連携をしていくことができれば色々な情報が伝わると思う。学校HPもどの学校も随時更新しているが、そういうものを見て周囲は情報を収集する。色々なことを我々ももっとやっていけば色々な理解が深まると思う。学校の責任者である校長の方針を皆でバックアップすることで、西東京市で育つ子ども達のために何ができるかを我々が考えていければ良いと思う。方針を出していただいているので、小学校の校長としてはこういうところに刺激を受け、考えが浮かぶ。子ども達のために何ができるかということを前向きに考えていくことが必要だと思う。

【柳沢小】

○委員：この案は良いと思う。理由は資料14ページにもある方策に対する意見にあるとおり、通学区域は容易に変えるべきではない、通学区域の見直しは今まで構築していた地域コミュニティが崩れることも考慮しなければならないと思うからである。また、この案の中で気になるのは、資料11ページに学校選択制度の受入制限の検討とあるが、柳沢中の近隣の中学校の学校の受入制限を検討した方が良いのではないかと思います。

○委員：一点補足したい。柳沢中と田無四中だけというのではなく、やはり周りの小・中学校も考えていかなければならないことである。もし考えるのであれば、全体の見直しを中学校だけではなく小学校の通学区域から見直しをしていくべきだと思う。合併してこうなったということであれば、小学校の通学区域から変わっていくことで、子ども達の横の繋がりができるのではないか。

【柳沢中】

○委員：大前提として柳沢中を子どもが卒業した経験から、柳沢中で良かったというのが私の実感であり、私を含めた周りの大人達、子ども達の感想である。ただ一方で協議会が立ち上がった要因として人数の大きな隔たりがあるということを考えていかなければならないということがある。市民はできる限り平等なサービスを受けることが希望であり、行政の責任であると考えため、そこに課題があるのであれば解決していくことが必要だと思う。小規模校のメリットを挙げていただき、そうなんだと感じられた方も多いかと思うが、一方で部活動については、実際の運営上は生徒と先生が一对一で練習している姿を見ると、そこはなんとかしたいと思う。2～3学級を5～6学級にすべきだとは考えないが、これから先、2学級あるいは1学級ということが視野に入ってくるのであれば、そこは考えなければならないと思う。前回も申し上げたが、通学区域の変更は最後の手段で、できる限りやりたくないという方向性は反対である。それも選択肢に含めた対応を、市の担当には考えてもらいたい。

○委員：先程、保谷第二小の校長先生からお話いただいた、柳沢中のために予算を取っていただいたらどうかという話だが、私達も予算がかからないお願いを学校運営課に依頼したが、市としてこのようなことに協力しようという雰囲気はなかった。私の子どもも柳沢中に3年間お世話になったが、小規模校の良さを噛み締めているところで、保護者としては少なくなっては困るが、3学級以上にならなくても良いという感覚でいる。このまま柳沢中を充実させていきたい。今回、P保連で世話人として関わらせていただき、市との懇談会にも参加したが、その中で西東京市全体の学校で出ている要望も拝見した。便器と壁の差がほとんどない構造のトイレの話もあり、写真も見せていただいた。各校色々な問題点がある中で、もう少し色々なことを、西東京市の全体を見て考えていただければありがたいと思う。

【田無第四中】

○委員：案のとおりいくと、保護者の馴染みのある生活圏はそのまま、保護者としては兄弟と同じ学校に行けて良かったとほっとされると思う。一方で、勝見校長のお話し

やったことを念頭に置くと、柳沢中は落ち着いていて良い教育をしているのだということが分ければ、柳沢中に通いたいと思われる方もいらっしゃるのではないかという話もした。田無四中も教室数は確保できるということだが、生徒数が増えても教育の質が落ちることのないよう、市からもバックアップしていただき、学校側も受入態勢をしっかりと整えてほしいと思う。

■全体での意見交換

○会長：各校それぞれ御意見ご感想を出していただいた。今回御意見をいただいた部分については、改めて事務局で整理させていただく。

○委員：今、田無四中の方からお話をいただいたが、柳沢中は先程こういうメリットがあるというお話だったが、田無四中は柳沢小の人数が増えた場合は、それなりのことができないということか。それとも大変だということか。今田無四中の御意見を聞いて少し不安になった。

○会長：もう少し詳しくお話いただけるか。

○委員：田無四中の御意見を聞いたときに道路の問題、いろいろあると思うが、柳沢小の保護者は、いつか保谷第二小と統合するのではないかという不安をずっと抱いていた。そういった中でこの状態のままでは田無四中が増え、やっていけないということであればそれは仕方ないと思うが、そこまでの状況でなければ、今の通学区域のままにさせていただきたいというのが柳沢小の保護者の考え方である。しかし、それが先程の田無四中の方からの御意見で不安になった。その部分をお聞きしたい。

○会長：柳沢小の御意見というのは改めて確認できたと思う。今感想を述べていただいているところであり、御意見があったということで受け止めてもらえればと思う。その整理については事務局でやっていただければということです承いただければと思う。その流れでよろしいか。

○事務局：今いただいた御意見について、事務局から御説明させていただきたい。流出という表現については、もう一度事務局で検討させていただきたいと思う。柳沢小からのご意見で田無四中の学校選択制度の枠だけでなく柳沢中の近隣の中学校の制限も検討しなければならないという話があったが、中学校区域については柳沢中学校、田無第四中学校の皆様にお集まりいただいており、その他の区域の具体的な方向性まで報告書の中でまとめるのが難しいというところである。

○委員：その通りで、タイトルに書いてないのは承知しているが、意見として申し上げた。

○事務局：また、学校運営課にお話されたということだが、その件はこちらで確認させていただきたい。色々御意見いただいたが、事務局で確認させていただき、最終的な報告書（案）としてお示しできればと思う。

○会長：全体的には今回の報告書（案）を概ね了承いただけたものであると思っているが、ただし、今回新たに御意見いただいた部分については、改めて事務局で整理をお願いしたい。

○委員：報告書を受け入れたということには異論がある。

○会長：報告書（案）を概ね了承していただけたという部分について異論があるということではよろしいか。他に異論はあるか。

○委員：異論ではないが、これだけそれぞれの学校の実情を抱えながら出席されている皆さんだと思うので、一つの方向でまとまるということはかなり難しく、事務局でも苦心してこの案を作っていると思う。概ねのところはこれで良いと言うか、対応は進めていかなければならないため、報告書の中で今後の課題をまとめていただき、本協議会でまとめきらなかったところを明記していただければと思う。

○会長：今修正の話があったが他にあるか。

○委員：概ね了承ということについて、どこが了承できないかについて、大きく2点ある。1点目は地域コミュニティということがよく話されているが、本当にそうなのかという疑問がある。柳沢小全域が柳沢中へとは変えるべきではないという話があったが、これはもともと複数の学校に行っている地域はどうするのかという疑問がある。また、2点目は、通学区域の見直しは最終手段ということで、おそらくこのままでは基本的に見直しを行わないという報告書（案）になるかと思うが、これについて異論がある。通学区域の見直しについても、もう少し積極的に議論すべきではないか。これは田無四中、柳沢中だけの問題というのではなく、西東京市全体で通学区域をどう考えるのかということはあるべきだと思う。

○事務局：今の2点について、まず複数の学校に行くということが現在もあるのではないかとことだが、その通りである。西東京市では最大で1校に対して中学校4校に分かれるというところがある。そういったところもあるため、今後御指摘のとおり全体的な検討はしていかなければならないことは認識している。学校規模適正規模・適正配置の基本方針は約10年前に懇談会を立ち上げて検討した中での方針だが、今後は全体的な学校の適正規模、適正配置について、ハード面も含めて検討し直す時期に来ていると思っている。しかしこれは地域への負担が大きいことであるため、長期的な視点で皆様の御意見を聞きながら進めていきたいと考えている。

○会長：事務局から回答があったが、次回がまとめの会ということで予定されていると思う。方向性については概ね了承ということで、新たに課題や問題点等については、まとめていただく必要があると思っている。改めて確認したいが、いかがか。

（概ね了承）

○会長：次回の会議を最終的なまとめとしていきたいと思う。

議第3 その他

○事務局：今後の予定について。

閉会